

# 田富小だより

令和2年度は、子どもたちのいないスタートとなりました。今年度の田富小は、55名の1年生を迎え児童数354名となります。教職員は、7名の新任教職員を迎え38名（他校との兼任を含む）となりました。中央市の教育の基本「まごころ」を胸に全教職員一丸となり、子どもたち一人一人が健やかに自分らしく成長するため、全力で日々の教育活動に取り組んで参ります。保護者及び地域の皆様、今年度も田富小の児童・教職員ともどもよろしくお願いいたします。



昨年度末から続く新型コロナウイルスの流行は、まだまだ予断を許さない状況にあります。子ども達や保護者のみなさんは、不安を感じながら新学期を迎えたことと思います。私たち教職員も一日も早く子ども達とともに学校生活を送りたいと願う一方で、目に見えない敵から子どもたちを守れるのかという不安を感じています。校医さんや市・県教育委員会と連携・協力しながら、考えられる対策を講じていきます。保護者の皆さまに御協力いただくこともあります。学校から出されるお便りやメールに必ず目を通していただきますようお願いいたします。

## 子どもの自立を目指して

教育は、子どもの自立を目指して行われるものです。しかし、はじめからすべて自分でできるわけではありません。家庭教育であれば生まれたときを「100」として、だんだん親が手をかける割合を減らし、社会人となるときまでには「0」にする必要があると思います。学校教育でも入学から卒業までだんだん自分でできることを増やしていくことを目指しています。田富小で行っている「やってみ見るじゃんノート」による自学の取り組みもその一例です。

人の成長には、必要な時に必要なことを与えることが必要です。教えるべきことや手をかけるべきことをやらない「放任」も、子どもができることややるべきことまでやってしまう「過保護」も、どちらも子どもの自立を実現することはできません。私たち教職員は、小学校であれば6年間という限られた時間子どもの教育に携わります。「この学年が終わるまでには（卒業するまでには）、こんなことができるようにさせたい」と、常に別れを意識して指導に当たっています。保護者には、子どもとの別れはぴんと来ないかもしれません。しかし、たとえ同居していても、精神的・社会的に自立させる必要があります。いつまでも親がそばに付き添ってやることはできないのですから。迷うこともあると思います。そんな時は、遠慮なく学校にご相談ください。子どものために必要なことをいっしょに考えていきましょう。スクールカウンセラーにも相談できます。なお、遠藤由紀子先生に変わり、田富小学校のスクールカウンセラーとして小泉里菜先生が配置されました。

## 私が出会った素敵な子ども達の姿

①4月3日に、6年生が登校し入学式の準備を行いました。久しぶりの登校でしたが、それぞれの分担に分かれて一生懸命働いてくれました。その姿からは、最上級生としての自覚が感じられました。残念ながら6日の入学式は延期となってしまいましたが、会場はそのまま残してあります。6年生が準備してくれた会場で、1年生の思い出に残る入学式が実施できる日を心待ちにしています。